

教育総合研究所の開所について

- 福井県教育総合研究所および自治研修所開所記念式典について
- 教育総合研究所の組織について
- 教員研修の見直し、研修計画概要
- 小中学校の訪問指導について
- 県立高校の学校訪問について
- 緊急・困難事案への対応（教育相談関係）

福井県教育総合研究所および自治研修所開所記念式典について

開催日 平成29年4月15日（土）

場 所 福井県教育総合研究所（坂井市春江町江留上）

日 程

1 式 典 （9：30～10：15） ※受付9：00～

・知事あいさつ、テープカットなど

2 施設見学 （10：15～10：45）

・教育博物館 小学生による競技カルタや唱歌の体験

・サイエンスラボ 中高生による電子顕微鏡などを使った実験体験

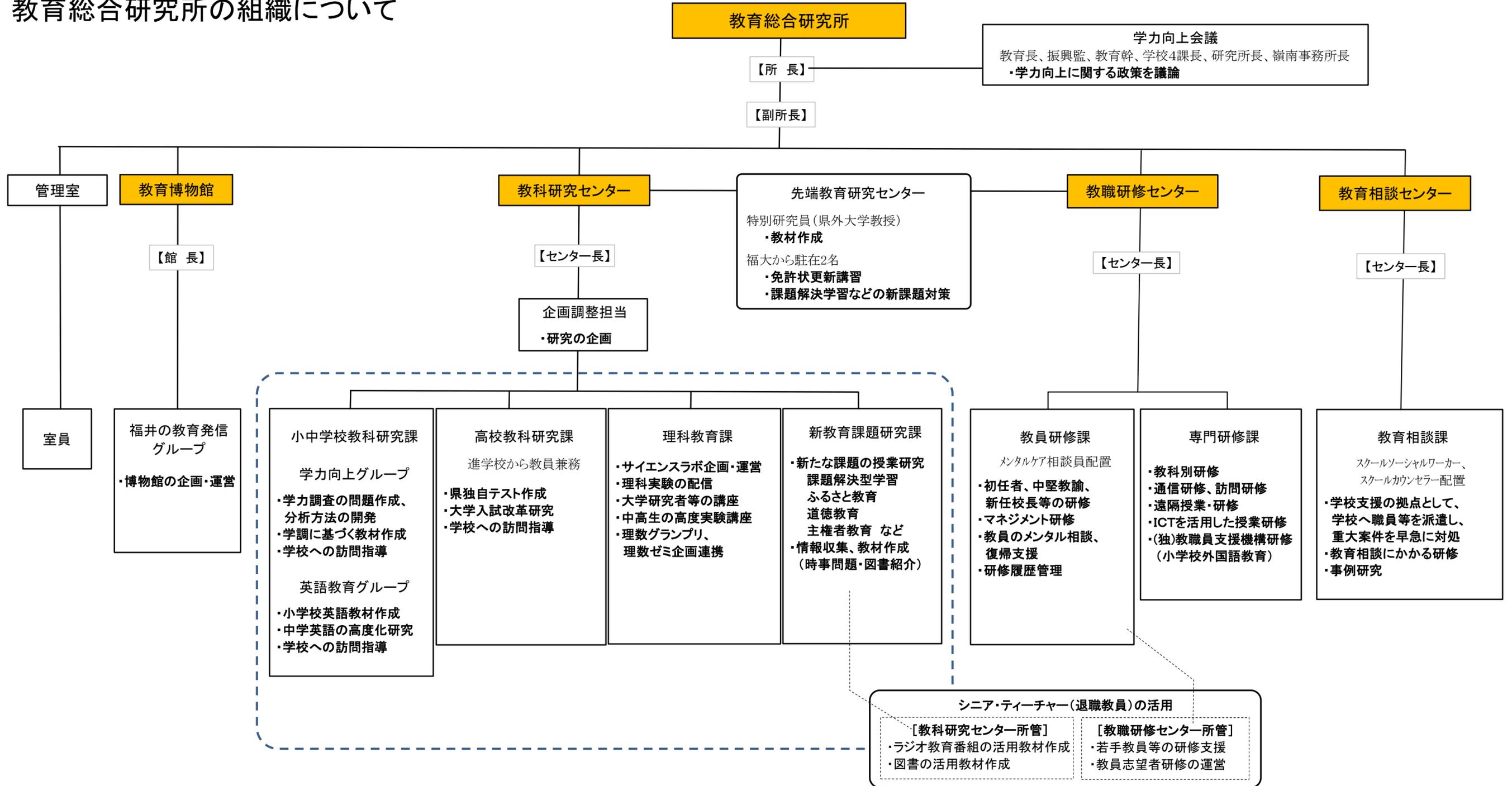
歌詞

3 記念講演 （10：50～12：20）

・講 師 明治大学文学部教授 齋藤 孝 氏



教育総合研究所の組織について



福井県教育総合研究所 教員研修の見直し(H29～)

- 教育総合研究所の研修、教育庁各課が実施する研修、免許状更新講習を含めて総合的に研修体系を見直し。
- 新学習指導要領への対応や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、ICT教育など、新たな教育課題に関する研修内容を充実。
- 必要な研修を効率的に受講できるよう、各研修の読み替え、遠隔システムや通信型研修の活用など、受講方法を工夫。
- 研究所等の研修に加え、教員の自主的な研究や学校内での研修を活性化することにより、本県の教育力向上を図る。

平成28年度まで	
初任者研修	14日
2年目研修	5日
3年目研修	3日
5年経験者研修	3日 (廃止)
10年経験者研修	8日
中堅教員(ミドルリーダー)研修	3日
新任教頭研修	5日
新任校長研修	3日
小計	44日
免許状更新講習(大学等で受講)	
・1回目(10年目)	5日
・2回目(20年目)	5日
・3回目(30年目)	5日
小計	15日
合計	59日

平成29年度 教員研修	
初任者研修 (うち集合・出張研修13日)	14日
2年目研修	5日
3年目研修	3日
改)中堅教諭等資質向上研修 【うち3日 免許状更新講習】 (免許状更新講習受講対象者) ※8日間のうち1日は、各課研修で読み替え可能 ※社会体験の研修を充実	(10年研修未受講者) 8日 (10年受講済) 3日 (10年受講済) 3日
改)ミドルリーダー養成研修 (39歳～41歳 校内研修・OJTのリーダー育成)	(△1日) 2日
新)マネジメント研修 (40代～50代前半で市町教委・県立学校長が推薦)	2日
新任教頭研修	5日
新任校長研修	3日
小計	48日
免許状更新講習(大学等で受講)	
・1回目(10年目)	2日
・2回目(20年目)	2日
・3回目(30年目)	2日
小計	6日
合計 ※免許状更新講習を含めた研修日数 59日→54日	(△5日) 54日

○効率的な受講

- ・2年目・中堅教員研修の一部講座を遠隔研修システムで配信し、嶺南教育事務所で受講可能
- ・中堅教員研修のうち1日(教科別研修)は、教育庁各課が実施する教科別の研修で読み替え可能
- ・実践型集合研修(受講任意)を精選し、「教科別研修Ⅱ・Ⅲ」として、2年目・中堅教員研修に導入
※講師の了解が得られたものは、遠隔研修システムで配信し、受講対象者以外の視聴も可能
※希望者も参加することが可能(会場・基本研修受講者数による)

○通信型研修の有効活用

- ・通信型研修のうち、年代ごとに受講を推奨する研修を明確化
- ・初任者・2・3年目研修の一部を通信型研修に置き換え、集合日数(時間)を短縮

○受講履歴管理システムの導入

- ・教育総合研究所、教育庁各課などの研修受講履歴を、個人ごとに管理できるシステムを導入 ※市町研修の履歴管理は今後検討
- ・教員のキャリアに応じた受講勧奨などに活用

学校内研修、訪問型研修の充実

- ・学校内研修のリーダーを育成、通信研修・遠隔研修システムの活用により、学校内での研修を活性化し、教員の指導力を向上
- ・研究所と県教委、市町教委が連携してブロック別に学校を訪問し、優れた指導法等を提供するなど、訪問型の研修を充実

自主研究活動の支援

- ・教員の自主的な研究活動に対する支援を充実
若手教員自主研究グループ 100件
授業実践研究 12件
出版活動 2件
指導方法研究(小中高教研) 20件

◎免許状更新講習に読み替える研修

教育総合研究所が実施する3日間の免許状更新講習のうち1日(6時間分)は、義務教育課が実施する次の研修受講で読み替えることが可能

- ・小学校学校担任英語研修
- ・教育相談担当教員養成研修

新たな教育課題への対応

○「主体的・対話的で深い学び」に関する研修

- ・2・3年目・中堅教員研修に「主体的・対話的で深い学び」に関する研修を実施し、基礎を身に付ける。
- ・ミドルリーダー養成研修で「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の研修を実施、校内研修等で学校全体に広める。また、校内OJTの実践事例報告を実施

○「ICTを活用した授業づくり」に関する研修

- ・初任者・2年目・中堅教員研修で、ICT機器の操作、授業・教材づくりの基礎などの研修を実施
- ・市町教委と連携し、市町の機器整備状況に応じた研修を市町ごとに実施(訪問研修、3年間で全市町実施)
- ・県立高校対象に総合的学習等におけるICT活用研修を実施

平成29年度

研修計画概要

福井県教育総合研究所

目 次

1	基本方針	1
2	平成29年度 研修の主な改善点	2
3	基本研修・職務研修	3
	初任者研修	4
	2年目研修	9
	3年目研修	10
	中堅教諭等資質向上研修(免許状更新講習)	11
	ミドルリーダー養成研修	15
	マネジメント研修	16
	新任教頭研修	17
	新任校長研修	18
4	基本研修で実施する教科別研修および通信型研修	19
5	新しい教育課題への対応	21
6	教育庁各課の研修	22
7	自主研究活動の活発化	25
8	研修受講の促進	26

1 基本方針

近年、グローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題への対応が必要となっており、子どもたちに求められる学力や教員に求められる資質や能力が変化しています。

一方、教育現場では、今後10年で約4割の教員が定年退職を迎え、若手教員が増加することから、ふくいの教育の良さを継承しながら新しい時代に対応した教員を育てる必要があります。

このため、教員研修については、教育総合研究所の研修に加え、学校現場における研修や教科ごとの自主研修など、研修全体の見直しを進めていきます。

具体的には、学力調査や大学入試、いじめや不登校などの課題に対応した「専門的な教科指導」「丁寧な生徒指導・進路指導」を基本として、主体的・対話的で深い学びの授業方法やICT教育、社会体験などの研修を充実させます。さらに、40歳代教員を中心に「学校マネジメント」能力を高めていきます。

また、小・中学校の学力向上や小学校英語の教科化については、新たに県内各地域ごとに授業改善に役立つ実践的な研修を実施するほか、本庁と研究所とが連携して、計画的に各学校を訪問して指導を行っていきます。

さらに、研修全体を効率的に実施するため、集合研修に遠隔研修システムを活用するとともに、集合研修の一部を通信型研修に置き換えます。また、本庁各課や特別支援教育センターなどで実施している研修を研究所の基本研修の一部に組み入れるとともに、県が実施する研修の一部を国の認定を受け免許状更新講習とすることにより、研修の重複を見直し、実質的に集合研修の日数を減らします。

併せて、自主研究活動や学校内での研修を活発化し、教員一人ひとりの指導力を高めていきます。

2 平成29年度 研修の主な改善点

(1) 基本研修・職務研修

○研修の充実

- ・新学習指導要領への対応や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、ICT教育など、新たな教育課題に対応できる教員を育成
- ・幅広い視野を持てるよう、社会体験の研修を充実
- ・40代教員対象に、新たに学校マネジメントの能力を高める研修を実施
- ・国の(独)教職員支援機構の研修を誘致し、県内外の教員が本県で受講

○研修の効率化

- ・基本研修に教科別研修を組み入れることにより教科に関する研修を円滑に受講可能
※旧「集合型実践研修」を精選し「教科別研修Ⅱ・Ⅲ」として基本研修に導入、確実な普及を図る。
- ・教育庁各課が実施する研修を基本研修の一部に読み替えることによる効率化
- ・これまで大学などが行っていた免許状更新講習について、国の認定を受け基本研修の一部として実施し効率化

(2) 学校内研修

○学校内での研修充実

- ・集合研修は効率化する一方で、学校内での研修により教員の指導力を向上。学校内研修のリーダーの養成と通信研修や遠隔研修システムを活用

(3) 通信型研修(遠隔研修システム)

○効率的に研修を充実

- ・集合研修の一部について、遠隔研修システムにより嶺南教育事務所に配信
- ・若手研修(初任者研修、2年目、3年目)と中堅教諭等資質向上研修などの一部を通信型研修に置き換える。

(4) 訪問型研修

○学校への訪問指導

- ・研究所と県教委、市町教委が連携してブロック別に学校を訪問し、優れた指導法や教材を小中学校に提供。県と市町の指導主事による学校への継続的な支援を実施
- ・小学校の英語教科化に向け、指導方法や教材を作成。全小学校訪問と教員研修により全県普及
- ・高校の学力到達度確認テストの分析結果をもとに各高校の教科ごとの授業改善を支援

(5) 自主研究の活発化

○自主研究への支援充実

- ・自主研究活動や教科研究会などへの支援を充実し、校内での研修を活発化

(6) 研修の受講促進

○研修受講履歴の管理

- ・教員の研修受講の履歴管理システムを導入。教育研究所や嶺南教育事務所、教育庁各課などが実施する研修の受講実績を管理し、適切な研修の受講を促進

3 基本研修・職務研修

研修名		日数	対象者
若手 教員 研修	初任者研修	14日	平成29年度に採用された教諭
	2年目研修	5日	平成28年度に採用された教諭
	3年目研修	3日	平成27年度に採用された教諭
(改)中堅教諭等資質向上研修 【兼 免許状更新講習】(注)		8日 【3日】	〈平成29年度対象者〉 昭和57年4月2日～59年4月1日生 昭和47年4月2日～49年4月1日生 昭和37年4月2日～39年4月1日生 ※研修等受講実績により、研修日数は異なる。
(改)ミドルリーダー養成研修		2日+3回	平成29年度に39歳になる教諭 ※ただし、学校長の判断で受講時期を39歳を含む3年(39、40、41歳)内で選択できるものとする。
(新)マネジメント研修		2日	管理職より推薦を受けた 40歳代～50歳代前半の教諭
新任教頭研修		5日	平成29年度の新任教頭
新任校長研修		3日	平成29年度の新任校長

幼稚園・認定こども園新採用教員研修(10日)

臨時任用講師研修(9日)は、平成29年度も継続実施

(注)免許状更新に必要な30時間の講習のうち、29年度に県が行う免許状更新講習は、必修6時間、選択必修6時間、選択6時間、計18時間(3日分)とします。残り12時間は、大学等で受講することとなるため、各自大学等に手続きをしてください。

初任者研修

(1) 目的

- ・教育公務員特例法第23条に基づき、職務の遂行に必要な事項に関する実践的指導力を養うとともに、教員としての使命感や幅広い知見を養う。
- ・豊かな人間性と共に、授業実践や生徒指導、進路指導などに関する高い専門性など教員として求められる多様な能力の基礎を、研修を通して実践的に身に付けられるようにする。

(2) 改善点

- ・授業実践力を向上させるために、初任から3年間継続して授業実践研究に取り組む。
- ・授業実践力を身に付けるために教科別研修Ⅰを導入する。
- ・研修の効率化のために集合研修1日を通信型研修に替える。

(3) 対象者

- ・平成29年度に採用された小学校、中学校、高等学校および特別支援学校の教員。

(4) 内容

①小学校

	研修内容	
第1日 4月3日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の服務 ・研修ガイダンス 通信型研修「福井教育フォーラム記念講演『見えてきた福井らしさ』」	
第2日 5月10日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくり①(授業自己評価・白川文字学) ・今日的課題(学級経営とソーシャルスキル) ・特別支援教育の基礎(発達障害への対応) ・メンタルケア(相談員と連携①) 通信型研修「保護者との関係づくり」	宿泊(三方)
第3日 5月11日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校英語教育のねらいと内容 ・人権教育 通信型研修「人権教育の基礎」	
第4日 5月25日(木)嶺北 6月8日(木)嶺南	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程 通信型研修「小学校外国語」	
第5日 各自設定	通信型研修受講 通信型研修「道徳教育の基礎」「情報セキュリティの基礎」	
第6日 7月28日(金)嶺北 8月9日(水)嶺南	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営基礎(学級づくり) 	

第7日 8月3日(木)	・教職員のメンタルヘルス ・授業実践研究① グループ協議 ・集団宿泊指導 ・メンタルケア(相談員と連携②)	宿泊(奥越)
第8日 8月4日(金)	・福井の自然教育・授業づくり② ・学校ケーススタディ 通信型研修「キャリア教育の基礎」	
第9日 8月17日(木)	・体育に関する安全管理と指導 通信型研修「学級づくりシリーズⅠ」	
第10日 11月9日(木)、16日(木) 22日(水)、30日(木) より1日選択	・授業実践研究② 世代を越えたグループ協議(1・2・3年目の教員) 通信型研修「授業のユニバーサルデザイン」	
第11日 1月25日(木)嶺北 1月18日(木)嶺南	・教育相談とカウンセリング ・メンタルケア(相談員と連携③) 通信型研修「不登校の理解と対応」	
第12日 2月8日(木)、13日(火) 20日(火)、21日(水) より1日選択	・授業実践研究③ 世代を越えたグループ協議(1・3・中堅の教員) 通信型研修「授業の見取りの基礎基本」	
第13日 各自設定	・授業研究(教科)	
第14日 各自設定	・授業研究(道徳、特別活動)	

②中学校

	研修内容	
第1日 4月3日(月)	・教職員のサービス ・研修ガイダンス 通信型研修「福井教育フォーラム記念講演『見えてきた福井らしさ』」	
第2日 5月11日(木)	・生徒指導 ・人権教育 ・健康安全教育(防災・食育) 通信型研修「人権教育の基礎」	宿泊(三方)
第3日 5月12日(金)	・今日的課題(学級経営とソーシャルスキル) ・メンタルケア(相談員と連携①) ・保護者対応と関係づくり ・授業づくり①(授業自己評価) 通信型研修「保護者との関係づくり」	
第4日 5月25日(木)嶺北 6月8日(木)嶺南	・教育課程 ・教科別研修Ⅰ 通信型研修「教科指導」	
第5日 各自設定	通信型研修受講 通信型研修「道徳教育の基礎」 通信型「情報セキュリティの基礎」	
第6日 6月29日(木)嶺北 6月22日(木)嶺南	・特別支援教育の基礎(発達障害への対応) ・部活動指導 通信型研修「思春期・青年期の理解」	

第7日 7月28日(金)嶺北 8月9日(水)嶺南	・学級経営基礎(学級づくり) 通信型研修「学級づくりシリーズⅠ」	
第8日 8月3日(木)	・教職員のメンタルヘルス・授業実践研究① グループ協議 ・集団宿泊指導 ・メンタルケア(相談員と連携②)	宿泊(奥越)
第9日 8月4日(金)	・福井の自然教育・授業づくり② ・学校ケーススタディ 通信型研修「キャリア教育の基礎」	
第10日 11月9日(木)、16日(木) 22日(水)、30日(木) より1日選択	・授業実践研究② 世代を越えたグループ協議(1・2・3年目の教員) 通信型研修「授業のユニバーサルデザイン」	
第11日 1月18日(木)	・教育相談とカウンセリング ・メンタルケア(相談員と連携③) 通信型研修「不登校の理解と対応」	
第12日 2月8日(木)、13日(火) 20日(火)、21日(水) より1日選択	・授業実践研究③ 世代を越えたグループ協議(1・3・中堅の教員) 通信型研修「授業の見取りの基礎基本」	
第13日 各自設定	・授業研究(教科)	
第14日 各自設定	・授業研究(道徳、特別活動)	

③高等学校

	研修内容	
第1日 4月3日(月)	・教職員の服務 ・研修ガイダンス 通信型研修「福井教育フォーラム記念講演『見えてきた福井らしさ』」	
第2日 5月11日(木)	・生徒指導 ・人権教育 ・健康安全教育(防災・食育) 通信型研修「人権教育の基礎」	宿泊(三方)
第3日 5月12日(金)	・今日的課題(学級経営とソーシャルスキル) ・メンタルケア(相談員と連携①) ・保護者対応と関係づくり ・授業づくり①(授業自己評価) 通信型研修「保護者との関係づくり」	
第4日 5月25日(木)	・教育課程 ・教科別研修Ⅰ 通信型研修「教科指導」	
第5日 各自設定	通信型研修受講 通信型研修「情報セキュリティの基礎」 通信型「キャリア教育の基礎」	
第6日 6月8日(木)	・高校教育の現状と課題 ・教科指導の実際(公開授業参観等) ・部活動 通信型研修「学級づくりシリーズⅠ」	

第7日 8月3日(木)	・教職員のメンタルヘルス ・集団宿泊指導	・授業実践研究① グループ協議 ・メンタルケア(相談員と連携②)	宿泊(奥越)
第8日 8月4日(金)	・福井の自然教育 ・学校ケーススタディ	・授業づくり②	
第9日 10月26日(木)	・特別支援教育の基礎・現状と課題 通信型研修「思春期・青年期の理解」		
第10日 11月9日(木)、16日(木) 22日(水)、30日(木) より1日選択	・授業実践研究② 世代を越えたグループ協議(1・2・3年目の教員) 通信型研修「授業のユニバーサルデザイン」		
第11日 1月18日(木)	・教育相談とカウンセリング	・メンタルケア(相談員と連携③)	
第12日 2月8日(木)、13日(火) 20日(火)、21日(水) より1日選択	・授業実践研究③ 世代を越えたグループ協議(1・3・中堅の教員) 通信型「授業の見取りの基礎基本」		
第13日 各自設定	・授業実践と研究協議(指導主事訪問)		
第14日 各自設定	・授業実践と研究協議(指導主事訪問)		

④特別支援学校

	研修内容		
第1日 4月3日(月)	・教職員のサービス	・研修ガイダンス	
	通信型研修「福井教育フォーラム記念講演『見えてきた福井らしさ』」		
第2日 4月20日(木)	・個別研究のテーマ設定にむけて ・障害の理解	・特別支援教育概論	
第3日 5月11日(木)	・生徒指導 ・健康安全教育(防災・食育)	・人権教育 ・メンタルケア(相談員と連携①)	宿泊(三方)
第4日 5月12日(金)	・今日的課題(学級経営とソーシャルスキル) ・保護者対応と関係づくり・授業づくり①(授業自己評価)	通信型研修「保護者との関係づくり」	
第5日 6月8日(木)	・高校教育の現状と課題 ・教科指導の実際(公開授業参観等) 通信型研修「教科指導」		
第6日 8月3日(木)	・教職員のメンタルヘルス ・集団宿泊指導	・授業実践研究① グループ協議 ・メンタルケア(相談員と連携②)	宿泊(奥越)
第7日 8月4日(金)	・福井の自然教育・授業づくり② ・学校ケーススタディ	通信型研修「ソーシャルスキル教育」	

第8日 10月19日(木)	・特別支援教育に関する課題研究 ・個別研究の中間報告(研究協議) ・教科指導の基礎
第9日 10月26日(木)	・特別支援教育の基礎 ・特別支援教育の現状と課題 通信型研修「思春期・青年期の理解」
第10日 11月9日(木)、16日(木) 22日(水)、30日(木) より1日選択	・授業実践研究② 世代を越えたグループ協議(1・2・3年目の教員) 通信型「授業のユニバーサルデザイン」
第11日 1月18日(木)	・教育相談とカウンセリング ・メンタルケア(相談員と連携③) 通信型研修「不登校の理解と対応」
第12日 1日	・個別研究の発表と今後の課題(通信型)
第13日 2月8日(木)、13日(火) 20日(火)、21日(水) より1日選択	・授業実践研究③ 世代を越えたグループ協議(1・3・中堅の教員) 通信型研修「授業の見取りの基礎基本」
第14日 各自設定	・授業実践と研究協議(指導主事訪問)

⑤幼稚園・幼保連携型認定こども園新規採用教員研修

	研修内容	
第1日 4月4日(火)	・研修ガイダンス ・幼児教育の方針・目標・現状と課題 ・教職員の服務 ・幼稚園教諭、保育教諭としての心得	
第2日 5月18日(木)	・福井県保幼小接続カリキュラムについて ・教育課程と指導計画 ・絵本の選び方と読み聞かせ	
第3日 6月16日(金)	・幼児期に起こりやすい事故の予防と手当 ・幼児期の食育	
第4日 7月27日(木)	・福祉体験 ・グループ協議 ・教職員のメンタルヘルス	宿泊(鯖江)
第5日 7月28日(金)	・自然を生かした遊びの工夫 ・運動遊びの工夫	
第6日 8月29日(火)	・音楽遊びの工夫 ・造形遊びの工夫 (事前学習)通信型研修「造形遊びの基礎」	
第7日 10月13日(金)	・文字環境の工夫・幼児の人権 ・保護者との対応と関係づくり	
第8日 1月25日(木)	・気がかりな幼児について ・幼児理解と自己理解 ・気がかりな幼児への支援(小学校初任者とグループ協議)	
第9日 各自設定	・幼稚園・認定こども園参観	
第10日 各自設定	・小学校参観	

2年目研修

(1) 目的

- ・新学習指導要領に示されている主体的・対話的深い学びを実践するための指導力の向上を図る。
- ・教員として必要な幅広い視野と多様なものの見方・考え方を身に付け、人格の形成を図る。

(2) 改善点

- ・小学校の実技系の教科について、受講者の課題に応じた授業実践力を身に付けるために、選択式の「教科別研修Ⅱ」を導入する。
- ・授業実践研究として主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた研究を進める。
- ・授業実践力の向上を図るために、初任から継続して授業実践研究に取り組む。

(3) 対象者

- ・平成28年度に採用された小学校、中学校、高等学校および特別支援学校の教員で、初任者研修を受講したもの。

(4) 内容

	研修内容
第1日 4月25日(火)嶺北 4月27日(木)嶺南	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用 タブレット等のICT機器を教材作りや授業などで活用する力を養う <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・授業実践研究① 「授業実践研究の意義」 主体的・対話的で深い学びの実現のためのICTの効果的な活用法を学ぶ
第2日 各自設定	<ul style="list-style-type: none"> 【小学校】教科別研修Ⅱ ・書写、音楽、図工、家庭、生活、外国語活動等から1講座選択 【中・高】主体的・対話的で深い学びの指導と評価 ・主体的・対話的で深い学びにおける評価のあり方を学ぶ(パフォーマンス評価など) 【特支】特別支援教育研修 ・特別支援教育センターの研修から1講座選択
第3日 10月24日(火)嶺北 10月31日(火)嶺南	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践研究② 「授業実践研究の深め方」 主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業方法について学ぶ <hr/> 通信型研修「主体的・対話的で深い学び講座【入門編】」
第4日 11月9日(木)、11月16日(木) 11月22日(水)、11月30日(木) より1日選択	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践研究③ 「今年度の間まとめ」 (世代を越えたグループ協議、1・2・3年目の教員) 授業実践を客観的な視点で問い直すことにより、実践を深める <hr/> 通信型研修「学級づくりシリーズⅡ」
第5日 各自設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動(1日) 各自がボランティアの場所、日時を設定して実施

3年目研修

(1) 目的

- ・専門的な教科指導力と授業力の向上を図る。
- ・時代に即した教育課題に取り組み、変化への対応力を育む。

(2) 改善点

- ・初任から3年間継続して授業実践研究に取り組み、研究を完成させる。
- ・時代に即した新しい教育課題を、校種別研修に取り入れる。

(3) 対象者

- ・平成27年度に採用された小学校、中学校、高等学校および特別支援学校の教員で、2年目研修を受講したもの。

(4) 内容

	研修内容
第1日 4月26日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践研究① 「前年度のまとめと今年度の概要」 (校種、教科ごとにグループ協議) 昨年度の授業実践の振り返りを通して、今年度の課題を明確化する ・講義(校種別研修) 「小学校英語の授業づくり」(小) 学習指導要領の改訂による外国語活動の導入や英語の教科化について理解し、授業実践について学ぶ 「教科別研修」(中・高) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業方法を学ぶ 「児童・生徒の行動理解」(特) 特別支援学校の子どもたちがもつ様々な行動の特性を理解し、個々の子どもたちに対応する方法を学ぶ。
第2日 11月9日(木)、11月16日(木) 11月22日(水)、11月30日(木) より1日選択	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践研究② 「今年度の中間まとめ」 (世代を越えたグループ協議、1・2・3年目の教員) 授業実践を客観的な視点で問い直すことにより、実践を深める <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 通信型研修「主体的・対話的で深い学び講座【授業づくり編】」
第3日 2月8日(木)、2月13日(火) 2月20日(火)、2月21日(水) より1日選択	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践研究③ 「3年間の総まとめ」 (世代を越えたグループ協議、1・3・中堅の教員) 授業実践を伝え合い聴き合うこと通し、世代を越えた多様な視点から問い直すことにより、教師自身の実践を深める <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 通信型「学級づくりシリーズⅢ」

中堅教諭等資質向上研修〔見直し〕

(1) 目的

- ・教育公務員特例法第24条の改正に基づき、中堅教諭として、教育活動その他の学校運営の円滑かつ効果的な実施において中核的な役割を果たすことへの意識の向上を図る。
- ・ふくいの教員として、職務を遂行する上で必要とされる資質・能力の向上を図る。

(2) 改善点

- ・研修の一部を免許状更新講習に読み替える。
- ・5経年の廃止および10経年の研修日数減により受講者の負担感を軽減する。
- ・受講者の課題に応じた授業実践力を身に付けるために、選択式の「教科別研修Ⅲ」を導入する。併せて、教育庁各課が行う教科研修の受講をもって「教科別研修Ⅲ」の受講に代えることにより、効率化と負担軽減を図る。
- ・社会体験研修（精神修養研修含む）を必修とする。

(3) 対象者および受講日数

①対象者

- ・昭和57年4月2日～58年4月1日生または昭和58年4月2日～59年4月1日生
- ・昭和47年4月2日～48年4月1日生または昭和48年4月2日～49年4月1日生
- ・昭和37年4月2日～38年4月1日生または昭和38年4月2日～39年4月1日生

②受講日数（研修受講状況に応じて軽減）

	10年経験者研修	免許状更新講習	受講日数
1	未受講	未受講	8日間（全日程）
2	未受講	受講済※	5日間（第1～2、6～8日目）
3	受講済	未受講	3日間（第3～5日目）
4	受講済	受講済	—（受講不要）

※2の「受講済み」には、平成29年度に免許状更新講習の受講の必要がない者を含む

(4) 認定単位(免許状更新講習)

- ・免許状更新に必要な30時間(必修領域6時間、選択必修領域6時間、選択領域18時間)のうち、必修領域6時間、選択必修領域6時間、選択領域6時間について教育総合研究所および義務教育課で講座を開設する。
- ・なお、残りの12時間はそれぞれの教員が大学等で受講することとする。

(5) 研修日程・会場

<第1日目>

- 平成29年5月16日(火) : 教育総合研究所

<第2日目>

- 教科別研修Ⅲおよび教育庁各課研修、特別支援教育研修から6時間分を受講

<第3～5日目>

- 平成29年7月24日(月) ～平成29年7月26日(水) : 教育総合研究所
- 平成29年8月 8日(火) ～平成29年8月10日(木) : 教育総合研究所
- 平成29年8月16日(水) ～平成29年8月18日(金) : 嶺南教育事務所
- 平成29年8月23日(水) ～平成29年8月25日(金) : サンドーム福井
- 平成29年12月25日(月) ～平成29年12月27日(水) : 教育総合研究所

※第5日目については、次の義務教育課実施研修の受講に代えることができる。

<ul style="list-style-type: none"> 小学校学級担任英語研修(1日を選択) 平成29年8月1日(火)～平成29年8月 3日(木) 教育相談担当教員養成研修(6時間分を読み替え) 嶺南会場 平成29年8月7日(月)～平成29年8月 8日(火) 嶺北会場 平成29年8月9日(水)～平成29年8月10日(木)
--

<第6日目>

- 平成30年2月8日(木)、13日(火)、20日(火)、21日(水)から1日選択

<第7～8日目>

- 社会体験研修(各自設定)

(6) 内容

	研修内容
第1日 5月16日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服務規律 ・ I C T機器の活用 タブレット等の I C T機器を教材作りや授業などで活用する力を養う(初級、中級の2講座開設) ・ ファシリテーションの意義と方法 主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業を行う上で、必要となるファシリテーション力を養う
第2日 各自設定	<ul style="list-style-type: none"> 【小学校】教科別研修Ⅲおよび教育庁各課研修(6時間) ・ 国語、算数、理科、社会などの研修から1講座選択 【中・高】教科別研修Ⅲおよび教育庁各課研修(6時間) ・ 各自の専門教科の研修を1講座選択 【特支】特別支援教育研修および教育庁各課研修(6時間) ・ 特別支援教育センターの研修から1講座選択

< 3～5日目 免許状更新講習に読み替える研修 >

<p>第3日 免許状更新講習の5 日程から1つを選択 7月2日(月)、8月8日(火) 8月16日(水)、8月23日(水) 12月25日(月)</p>	<p>教育実践と教育改革Ⅰ「これからの教育を学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の教育政策や世界の教育の動向 ・子どもの変化と発達 ・実践の展開の道筋をたどる視点と方法(世代別グループ協議)
<p>第4日 免許状更新講習の5 日程から1つを選択 7月3日(火) 8月9日(水) 8月17日(木) 8月24日(木) 12月26日(火)</p>	<p>教育実践と教育改革Ⅱ(年代別研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各年代に求められる次のテーマについて、実践報告を読み解き、その実践をグループ協議で説明、実践を振り返りながらまとめる ・同世代と語り合いながら授業改善・個別支援等の視点を学ぶ <p>テーマ1(30代受講者対象) 「主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業づくりを学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びを導くカリキュラムデザインの考え方、評価の方法 <p>テーマ2(40代受講者対象) 「気がかりな子どもの支援を学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営や特別に支援の必要な子どもの指導等 <p>テーマ3(50代受講者対象) 「チーム学校を学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営に関する教育実践、学校運営への関わり方
<p>第5日 免許状更新講習の5 日程から1つを選択 7月4日(水) 8月10日(木) 8月18日(金) 8月25日(金) 12月27日(水)</p> <p>または 義務教育課が実施する研修から1日(6時間分)を読み替え</p>	<p>教育実践と教育改革Ⅲ「教育実践を深める」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践の歩みを記録することの意味 ・自分自身の実践経験の歩みをたどり直す ・教師の成長に関する課題の確認・整理 <hr/> <p><義務教育課が実施する免許状更新講習></p> <p>(ア)研修名 小学校学級担任英語研修(1日を選択) 日 程 平成29年8月1日(火)～3日(木)</p> <p>(イ)研修名 教育相談担当教員養成研修(6時間分を読み替え) 日 程 <嶺北会場>平成29年8月9日(水)～10日(木) <嶺南会場>平成29年8月7日(月)～8日(火)</p> <p>内 容 <1日目>信頼関係をつくるカウンセリング <2日目>チーム支援の考え方と進め方</p>

<p>第6日</p> <p>2月8日(木)</p> <p>2月13日(火)</p> <p>2月20日(火)</p> <p>2月21日(水)</p> <p>より1日選択</p>	<p>・教育実践研究 「教育実践研究のまとめ」 (世代を越えたグループ協議、1・3・中堅の教員)</p> <p>教育実践を伝え合い聴き合うことを通し、世代を越えた多様な視点から問い直すことにより、教師自身の実践を深める</p> <hr/> <p>通信型「ファシリテーションの基礎」</p>
<p>第7日、第8日</p> <p>各自設定</p>	<p>・社会体験研修(2日間)</p> <p>受講者が次のア、イ、ウから1つを選択し実施</p> <p>ア 民間企業体験</p> <p>イ 福祉施設体験</p> <p>ウ 精神修養研修(永平寺座禅)</p>

※校(園)内研修は年間10日

ミドルリーダー養成研修〔見直し〕

(1) 目的

- ・校内研修においてOJTを推進するスキルを育成する。
- ・実践に関する情報を共有し、自身の実践に活用できるスキルを育成する。
- ・校内の組織を活用してOJTを進めることにより、教員間の協働意識を高める。

(2) 改善点

- ・県全体でのミドルリーダー養成のための研修へと変更する。
- ・学校現場に即した研修を扱うことにより、受講者の意識を高める。

(3) 対象者

- ・平成29年度に年齢が39歳になる教諭（昭和53年4月2日～昭和54年4月1日生）
※ただし、学校長の判断で受講時期を39歳を含む3年(39、40、41歳)内で選択できるものとする。

	研修内容
第1日 5月19日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習「校内研修における授業改善のOJTの組織作り」 校内研修を通しての人材育成 メンター機能のある組織作り 所属校における現状と課題の把握について ・講義、演習「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について」 主体的・対話的で深い学びの授業改善ポイント 所属校における現状と課題の把握について
	(事前研修)通信型研修「効果的な校内研修をめざして」
第2日 2月9日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習「校内研修OJTのPDCAサイクル」 ・グループ協議「所属校における校内OJTの実践事例報告」

(4) 校内研修（年間3日）

- ・教科会、研究会、学年会等において、校内OJTを実践する。

マネジメント研修〔新設〕

(1) 目的

- ・中堅教員が将来、管理職を目指す上で必要な資質や能力を高める。
- ・学校組織マネジメントの研修を行い、学校経営の理論やそれに基づいたビジョンを理解し、その改善のための方法を学ぶ。
- ・カリキュラム・マネジメントの研修を行い、新学習指導要領や主体的・対話的で深い学びの実現など、喫緊の課題に対応した教育課程を編成、改善するスキルを高める。

(2) 改善点

- ・今後、多くの50歳代の教職員が定年を迎え退職することから、将来、学校のマネジメントを担う人材の養成研修を新設する。

(3) 対象者

- ・市町教育委員会または県立学校の管理職より推薦を受けた40歳代～50歳代前半の教諭

	研修内容
第1日 8月7日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習「組織の活性化に向けた学校組織マネジメントの活用」 <li style="padding-left: 20px;">内外環境の把握と特色づくり <li style="padding-left: 20px;">学校経営のビジョン作りとその具現化 <li style="padding-left: 20px;">所属校のスクールプランの検討と意見交換 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> (事前研修)通信型研修「学校組織マネジメント」
第2日 10月4日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習「教育目標実現のためのカリキュラム・マネジメント」 <li style="padding-left: 20px;">各学校の教育目標実現のための、学習指導要領等に基づいた教育課程の編成や、その実施・評価、改善について <li style="padding-left: 20px;">教育課程全体を通しての取り組み <li style="padding-left: 20px;">学校全体としての取組 <li style="padding-left: 40px;">「主体的・対話的で深い学び」の視点と連動させた学校経営の展開 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> (事前研修)通信型研修「カリキュラム・マネジメントの基礎」

新任教頭研修

(1) 目的

- ・ 評価者として教頭に求められる資質能力の向上を図る。
- ・ ケース演習を通して実践的なマネジメント手法を学び、学校経営力の向上を図る。
- ・ ファシリテーターの経験を通して、傾聴の技術と大切さを学ぶ。

(2) 改善点

- ・ マネジメントに関する研修を1日から2日間に増やし、内容の充実を図る。

(3) 対象者

- ・ 平成29年度 公立小学校・中学校・県立学校の新任教頭

(4) 内容

日次	研修内容
第1日 4月21日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教頭に期待すること(教育長講話) ・ 教頭としての実務 ・ 目標管理・人事評価の考え方と進め方 面談の行い方や評価する視点について学ぶ <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> (事前研修)通信型研修「目標管理の基礎」
第2日 6月27日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい時代に対応するための学校管理職マネジメント① 学校の現状に関する情報収集 問題の原因分析 学校の現状を把握するための情報収集のポイントや分類の仕方、さらに分析の進め方について演習を通して学ぶ
第3日 8月21日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい時代に対応するための学校管理職マネジメント② 学校の将来像を考える構想 施策案の企画 学校教育目標や重点目標を設定し、それを達成するための具体的な方策を企画する際の考え方や観点について演習を通して学ぶ
第4・5日 7・8・12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファシリテーター 免許状更新講習のグループ協議でファシリテーターを務める

新任校長研修

(1) 目的

- ・学校経営ビジョンの立て方や共有化など、学校改善に向けての戦略を学ぶ。
- ・カリキュラム・マネジメントに関する専門的な知識を習得し、実践的な学校経営力を育成する。
- ・魅力ある学校づくりのための具体的な実践や危機管理について学び、多様な視点で対応できるようにする。

(2) 改善点

- ・これからの学校管理職に求められるカリキュラム・マネジメント研修を導入。

(3) 対象者

- ・平成29年度 公立小学校・中学校・県立学校の新任校長

(4) 内容

研修内容
第1日 4月13日(木) <ul style="list-style-type: none"> ・校長に期待すること(知事講話) ・学校経営ビジョンの作成と共有 学校経営ビジョンを立てる際のポイントや職員への共有化、学校改善のための手法を学ぶ (事前研修)通信型「学校組織マネジメントの基礎」
第2日 6月9日(金) <ul style="list-style-type: none"> ・障害を理由とする差別解消の推進 ・カリキュラム・マネジメントによる学校改革 教育課程におけるPDCAサイクルの確立のためのカリキュラム・マネジメント
第3日 7月28日(金) <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織の活性化と危機管理のポイント 校長経験者から、魅力ある学校づくりのための具体的な実践や危機管理のあり方を学ぶ

4 基本研修で実施する教科別研修および通信型研修

(1) 教科別研修

区分	教科	研修講座タイトル	受講対象者				所管	
			初任者研修	2年目研修	中堅教諭等	資質向上研修	教育総合研究所	嶺南教育事務所
教科別研修Ⅰ	各教科	校種別教科研修	○					
教科別研修Ⅱ	芸術	小・中学校国語科書写		○			□	
		小学校音楽科		○			□	
		小学校図画工作科		○			□	
	家庭	小学校家庭科		○			□	
教科別研修Ⅲ	国語	小学校国語科			○		□	□
		中学校国語科			○		□	□
		高等学校国語科			○		□	■
	地歴 公民 社会	小学校社会科			○		□	□
		中学校社会科			○		□	□
		高等学校地理歴史・公民科			○		□	■
	算数 数学	小学校算数科			○		□	□
		中学校数学科			○		□	□
		高等学校数学科			○		□	■
	理科	小学校理科			○		□	□
		中学校理科			○		□	□
		高等学校理科(物・化・生・地)			○		□	
	芸術	中学校音楽科・高等学校芸術科音楽			○		□	
		中学校美術科・高等学校芸術科美術			○		□	
		高等学校芸術科書道			○		□	
技術 家庭	産業教育とものづくり			○		□		
	高等学校家庭科			○		□		
英語	中学校英語科			○		□	□	
	高等学校英語科			○		□	■	

(2) その他の講座

講座	対象者	教育総合研究所	嶺南教育事務所
複式教育	複式教育で指導している教員	□	■
道徳教育	道徳教育推進教師	□	□

・「□」は実施する講座 「■」は遠隔システムによる配信講座

・「○」は研修対象者が選択して受講すべき講座(1講座)

(3) 通信型研修

領域	講座タイトル	受講対象者										
		初任者研修				2年目研修	3年目研修	中堅教諭等資質向上研修	ミドルリーダー養成研修	マネジメント研修	新任教頭研修	新任校長研修
		小	中	高	特							
授業改善	教科指導に関する研修(各教科)		○	○	◎							
	授業のユニバーサルデザイン	◎	◎	◎	◎				◆			
	授業の見取りの基礎基本	◎	◎	◎	◎				◆			
	道德教育の基礎	◎	◎									
	小学校外国語活動の授業づくり	○					○					
	主体的・対話的で深い学び講座〔入門編〕	◆	◆	◆	◆	◎	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	主体的・対話的で深い学び講座〔授業づくり編〕	◆	◆	◆	◆	◆	◎	◆	◆	◆	◆	◆
	主体的・対話的で深い学びで学校改善を									◆	◆	◆
教育相談・学級経営	不登校の理解と対応	◎	◎	◎	◎						◆	
	思春期・青年期の理解		◎	◎	◎							
	保護者との関係づくり	○	○	○	○							
	人権教育	○	○	○	○							
	学級づくりシリーズⅠ	◎	○	◎								
	学級づくりシリーズⅡ					◎						
	学級づくりシリーズⅢ						◎					
	ソーシャルスキル教育				○							
	福井県の学級適応感と学力											◆
情報教育	情報セキュリティの基礎	◎	◎	◎								
	知ってる？ネットトラブルのこと											◆
学校改善	見えてきた福井らしさ	◎	◎	◎	◎							
	キャリア教育の基礎	○	○	◎								
	変わる大学入試			○								
	ファシリテーションの基礎							◎			◆	
	効果的な校内研修をめざして								○			
	カリキュラム・マネジメントの基礎									◆		◆
	教師のメンタルヘルス										◆	
組織経営	学校組織マネジメント									◆		○
	目標管理の基礎										○	
	リスクマネジメントの基礎										◆	
	教育法規の基礎入門										◆	
	管理職のための教育法規											◆

◎…集合研修に置き換え、受講後は学校長にレポート提出(A41枚程度)

○…事前教材として視聴する講座

◆…受講を推奨する講座

5 新しい教育課題への対応

(1) 「主体的・対話的で深い学び」に関する研修の進め方

- ① ミドルリーダー養成研修において、校内研修に向けた深い学びの視点からの授業改善の研修を実施する。受講者が各学校に戻り校内研修を行い、学校全体に広げていく。さらに、各学校の実践事例を研修で報告し、各教員による協議を行いレベルアップしていく。

(スケジュール)

- 5月 集合研修 「深い学びの視点からの授業改善について」 校内研修に向け実施
～ 校内研修 教科会、研究会、学年会等においてOJT実施
- 2月 集合研修 「所属校における校内OJTの実践事例報告」

- ② 若手教員の基本研修において、主体的・対話的で深い学びに関する研修を実施し、基礎を身に着けさせる。若手以外の教員については、通信研修の受講を促進する。

- 2年目研修 「深い学びの視点を取り入れた授業方法」
- 3年目研修 「教科別の深い学びの視点を取り入れた授業づくり」
- 中堅教諭等資質向上研修
「深い学びの視点を取り入れた授業方法」

(2) ICTを活用した授業づくりの研修の進め方

- ① 市町への訪問研修、県立高校教員に対する集合研修

- ・タブレットPCの市町の整備状況に合わせて、各市町教育委員会と連携し研修を実施する。

(スケジュール)

- 5～6月 ・各市町のICT整備状況調査、市町別研修の企画
(総合的学習、英語、理科(実験・観察)などの具体的な活用方法を作成)
- 夏季休業中 ・ICT環境の整備が進んでいる市町から年度別に研修実施
(年間5～6市町、3年間で全市町の研修実施。各学校から情報担当1名出席)
- ・研修受講者が各自の学校で校内研修を実施

- ・各県立高校から教員1名ずつが参加し、総合的学習におけるICTを活用した授業づくりの研修を実施。英語や理科などの教科における活用方法を研究所で研究

- ② 若手教員の基本研修において、若手を対象にICT機器の操作など基礎的な研修を実施する。

- 初任者研修 通信研修による「情報セキュリティの基礎」
- 2年目研修 「タブレットを活用した教材作りや授業」
- 中堅教諭等資質向上研修
「タブレットを活用した教材作りや授業(初級・中級の2講座)」

6 教育庁各課の研修

	研修名	主な研修内容	実施日数
1	初任者研修実施校連絡協議会	初任者研修の概要、校内研修および校外研修の内容	0.5
2	拠点校指導教員研修会	拠点校指導教員の職務および校内研修について情報交換拠点校指導教員の指導の実践についてグループ研修	0.5
3	指導教員研修会	グループ別情報交換「全校体制で取り組む初任者研修の円滑な実施について」	0.5
4	ブロック別研修会(小学校・国・算)	学調上位校の指導をまとめた教材の活用法	0.5
5	ブロック別研修会(中学校・国・社・数・理・英)	学調上位校の指導をまとめた教材の活用法	0.5
6	国語授業力向上研修	古典・中国語・書写の授業力向上についての研修	0.5
7	小学校教員指導力向上事業	小学校教員に対する理科授業力向上のための研修	0.5
8	小学校5・6年生担任対象英語研修	英語教科化に沿った指導法に関する講義・演習	3
9	中高英語教員研修	指導力向上に資する研修	1
10	教員の外部検定受検	TOEIC等の受検	2.5
11	発音指導法・語学番組活用法研修	NHK語学番組の活用法および英語の発音に関する知識や技能	1
12	新聞を活用した教育研修会	新聞を活用した授業の改善・充実のための研修	0.5
13	地域と進める体験活動研修会	事業説明と実践発表、今後の取組みについての情報交換	0.5
14	道徳教育実践型集合研修(研究所と連携)	「今、求められる道徳教育」～教科化にむけた道徳教育の充実を目指して～	1
15	弦楽指導者講習会Ⅰ	バイオリン基本奏法・応用奏法の指導法	0.5
16	弦楽指導者講習会Ⅱ	チェロ基本奏法の指導法・合奏法	1
17	弦楽指導者講習会Ⅲ	弦楽クラブ・部活動の運営について	0.5
18	吹奏楽指導者研修会	吹奏楽の合奏指導法に関する研修	1.5
19	外国人児童・生徒等教育連絡協議会	外国人児童生徒を担当する教員の資質の向上に向けた研修	0.5
20	保幼小接続講座	スタートカリキュラム	1
21	保幼小接続講座	子どもの主体性を核とした園・小学校での野菜の栽培	0.5
22	保幼小接続講座	学びの芽～生活リズムと学びの基盤～	0.5
23	保幼小接続講座	学びに向かう力を育てるスタートカリキュラム	0.5
24	保幼小接続講座	学びと育ちをつなげる保幼小接続～遊びこみから学びこみへ～	0.5
25	保幼小接続講座	身体を動かす楽しさを体感し、創造的な遊びを生み出す運動遊び	0.5
26	保幼小接続講座	0歳から5歳児の接続、5歳児と1年生の接続	0.5
27	園内リーダー養成研修1	園内研修の活性化を図る園内リーダーの役割	0.5
28	園内リーダー養成研修2	事例検討会	0.5
29	園内リーダー養成研修3	事例検討会	0.5
30	園内リーダー養成研修4	事例検討会	0.5
31	園内リーダー養成研修5	事例検討会	0.5
32	園内リーダー養成研修6	合同発表会	0.5
33	園内リーダーフォローアップ研修1(嶺北)	自園での研修方法、遊びの中の学びについて	0.5
34	園内リーダーフォローアップ研修1(嶺南)	自園での研修方法、遊びの中の学びについて	0.5
35	園内リーダーフォローアップ研修2(嶺北)	遊びの中の学びについての実践報告と今後の見通し	0.5
36	園内リーダーフォローアップ研修2(嶺南)	遊びの中の学びについての実践報告と今後の見通し	0.5

義務教育課

	研修名	主な研修内容	実施日数
37	市町幼児教育アドバイザー養成研修1	保育の質を高める市町アドバイザーの役割	0.5
38	市町幼児教育アドバイザー養成研修2	実践研究(園内リーダー支援)	0.5
39	市町幼児教育アドバイザー養成研修3	実践研究(園内リーダー支援)	0.5
40	市町幼児教育アドバイザー養成研修4	実践研究(園内リーダー支援)	0.5
41	市町幼児教育アドバイザー養成研修5	幼児期に育成すべき資質・能力	1
42	市町幼児教育アドバイザー養成研修6	実践研究(園内リーダー支援)	0.5
43	市町幼児教育アドバイザー養成研修7	合同発表会	1
44	新規採用教員研修(保育教諭)園外研修1	幼児教育全体、教諭の心得	0.5
45	新規採用教員研修(保育教諭)園外研修1	幼児教育全体、教諭の心得	0.5
46	新規採用教員研修(保育教諭)園外研修2	保幼小接続カリキュラム、気がかりな幼児	0.5
47	新規採用教員研修(保育教諭)園外研修2	保幼小接続カリキュラム、気がかりな幼児	0.5
48	新規採用教員研修(保育教諭)園外研修3	認定こども園教育・保育要領	0.5
49	新規採用教員研修(保育教諭)園外研修3	認定こども園教育・保育要領	0.5
50	教育相談担当者連絡協議会(研修会)	SC・SSWの活用方法等について	0.5
51	地区別人権研究協議会(主催 高校教育課)№54再掲	教員の人権感覚を高め、児童・生徒の実践的な行動力を育てる人権教育の充実	0.5
52	いじめ・不登校対策研修会	いじめ・不登校の未然防止に関する研修	0.5
53	教育相談担当教員養成研修	30~40歳代の教員を対象に、学校における教育相談活動のアドバイザーを養成する研修	1
54	地区別人権教育研究協議会	各学校における人権教育推進のための研修	1.5
55	嶺南地区県立学校人権教育担当者および小中学校福祉教員等連絡協議会	各学校における人権教育推進のための研修	0.5
56	観光に関する教員研修会	商業科観光科目担当者を対象とした研修	1.5
57	主権者教育指導者研修	時事問題に関する討論型の授業や模擬議会などの実践的な学習に係る研修	0.5
58	中学・高校家庭科教員研修	ライフプラン学習に関する研修	0.5
59	特別支援教育教育課程研究集会	特別支援学校に係る教育課程の伝達講習会	0.5
60	通級指導担当教員研修	発達障害アセスメントや特性に応じた学習指導法の研修	3
61	特別支援学校教員免許法認定講習(知的障害)	特別支援学校教員免許取得のための研修会	2
62	特別支援学校教員免許法認定講習(肢体不自由)	特別支援学校教員免許取得のための研修会	2
63	特別支援学校教員免許法認定講習(病弱)	特別支援学校教員免許取得のための研修会	2
64	特別支援学校教員免許法認定講習(基礎理論)	特別支援学校教員免許取得のための研修会	2
65	特別支援学校教員免許法認定講習(LD・重複等)	特別支援学校教員免許取得のための研修会	2
66	医療的ケア(特定行為従事者)教員研修	医療的ケアを担当する教員研修	2
67	特別支援教育コーディネーター連絡協議会(特別支援学校)	特別支援教育コーディネーターの連絡会	1
68	特別支援教育コーディネーター連絡協議会(幼小中)	特別支援教育コーディネーターの連絡会	1.5
69	特別支援教育コーディネーター連絡協議会(中・高)	特別支援教育コーディネーターの連絡会	0.5
70	特別支援学校進路指導担当者連絡協議会	特別支援学校児童生徒に係る進路指導関係の連絡会および研修会	1.5
71	教育相談担当者連絡協議会(研修会)	特別支援教育に係る個別の教育支援計画・指導計画の作成に関する研修会	0.5
72	特別支援教育コーディネーター専門研修	学校全体で特別支援教育を推進するための専門的知識や実践的力量的の向上を図るための研修	3.5

	研修名		主な研修内容	実施 日数
73	高校 教育 課	授業研究リーダー研修	特別支援教育の授業づくりを推進する研究リーダーとしての専門的知識や実践の力量の向上を図るための研修	4
74		特別支援教育コーディネーター養成研修(幼・小・中・高)	特別支援教育コーディネーターの基礎的知識や技能を培うための研修	2
75		特別支援教育コーディネーター養成研修(特支校)	センターの機能を担う特別支援学校のコーディネーターとしての基礎的知識や技能を、実践を通して培う研修	3
76		新任特別支援学級担任教員研修	特別支援学級担任として必要とされる学級経営、学習指導、児童生徒理解等に関する研修	3.5
77	特別支援教育 センター 研修講座	No.1 通常学級の授業づくり(小・中) No.2 特別支援学級・通級指導教室での取組 No.3 思春期・青年期における支援 No.4 子ども理解から始まる自立活動(特支校) No.5 校内体制づくり(管理職対象) No.6 特別支援教育入門 No.7 読み書き支援 No.8 ICT活用 No.9 医療の基礎知識 No.10 保護者支援 No.11 自閉スペクトラム症の理解と支援 No.12 幼保のクラスづくり No.13 特別支援学校の教材開発と実践 No.14 就学支援 No.15 交流及び共同学習	12	
78	生涯 学習 ・ 文化 財 課	書写・書道教員実技指導研修	小・中・高の国語科、芸術科書道の教員を対象に書写・書道についての実技指導力向上につながる研修	0.5
79		書写・書道派遣指導員研修	小・中・高に派遣する書写・書道指導員を対象に学校における指導の方法についての研修	0.5
80		漢字指導者認定講座(白川文字学ゼミ)	小・中・高の教員対象に、漢字や国語についての指導力育成につながる研修	0.5
81		漢字指導者認定講座(白川静漢字教育賞表彰式)	漢字教育賞受賞実践報告および漢字文化等に関する研修	0.5
82		人権教育指導者研修会	同和問題をはじめとする人権問題に関する講演と体験的参加型学習	0.5
83		子ども読書取組事例研修会	図書を活用した先進的な取組を学ぶ研修	0.5
84		子ども読書指導者研修会	子ども読書指導者としての指導法を学ぶ研修	0.5
85	スポ ー ツ 保 健 課	体育主任研修会	体育科の教育課程の編成および実施上の諸課題や体力向上、運動部活動等について協議する	0.5
86		学校体育実技講習会	小・中・県立学校等における体育学習の考え方と進め方についての研修を深め、資質の向上を図る。	0.5
87		県立学校保健体育科主任研修会	県立学校の保健体育科に関する研修	0.5
88		学校体育実技指導者伝達講習会	子供の体力向上指導者養成研修会(中央研修会)の県内伝達講習会	1
89		武道(剣道)指導者養成講習会	武道経験の少ない体育担当教員、部活動担当者を対象とした実技講習会(1級取得)	2
90		学校体育実技(武道:剣道)認定講習会	武道指導の充実を図るため、実技指導力の向上を目的とする実技講習会(段位取得)	3
91		武道の授業を楽しくすすめる研修講座	武道の学習指導をすすめるにあたって必要な基礎技能と知識の習得を目的とする実技研修会	0.5
92		スポーツ施設安全管理講習会	プールの施設面、管理・運営面で配慮すべき事項並びに監視・救助・応急手当等、事故防止のためにプール管理	0.5
93		保健主事研修会・養護教諭講習会	職務に対する専門的知識および技能を高め、今後の積極的な保健活動に資する	0.5
94		養護教諭研修講座	養護教諭の職務の特質を生かした保健学習や保健指導への関わり方及び進め方	1
95		防災教室講習会	教職員の防災に対する意識向上を図るための講習会	1
96		防犯教室講習会	教職員の防犯に対する意識向上を図るための講習会	0.5
97		給食主任研修会	「ふくい子ども食育チャレンジ」の活用及び指導方法について研修	0.5
98		栄養教諭・学校栄養職員研修会	「ふくい子ども食育チャレンジ」の実践及び普及に向けた研修	1
99	学校 振 興 課	内定者事前研修	採用に向けての自己研鑽支援等	2.5

7 自主研究活動の活発化

(1) 自主研究グループに対する支援を充実し、校内での研修を活発化

○自主研究グループ等に対する支援内容

・教員自主研究グループ	補助限度額	10万円(100件)
・授業実践研究	補助限度額	20万円(12件)
・出版活動	補助限度額	40万円(2件)
・指導方法研究(※)	補助限度額	30万円(20件)

※対象は、小・中・高教研の教科部会

(2) 研究所の施設利用時間を延長し、教員の自主的な研究活動の場所を提供

○研究所の時間延長

火、木曜日の施設利用時間を延長	8:30~20:00
(月、水、金曜日は通常どおり	8:30~17:15)

○対象施設

研修室、図書室

※ 自主研究活動による研修室などの利用を広報し、施設の活用を促進する。

8 研修受講の促進

- 人事評価の自己研鑽項目に研修受講実績を加え、面談で受講履歴の確認を行う。
また、受講対象者が必要な研修を未受講の場合は、教育総合研究所から各校長宛にそのことを通知する文書を発送する。校長は未受講者に対して面談時に受講を促す。
- 研修の受講状況を授業名人、優秀教員など選考の参考資料とする。
- 管理職昇任試験の自己申告書等に研修受講実績の記載欄を設け、管理職選考の参考資料に加える。
※今後、福井大学教職大学院の単位として認定される制度を検討する。

小学校	年齢	23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60																							職務研修			
	採用年数	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38											新任 教頭 研修	経年 教頭 対象 研修	新任 校長 研修	経年 校長 対象 研修												
研修	初任者研修	2年目研修	3年目研修		中資堅教論上等	免更新講習①		ミドルリーダー養成研修		免更新講習②		マ研修メント		免更新講習③		5		3										
日数	14	5	3		5	3		2		3		2		3														
教科等	国語 書写 算数 理科 社会 音楽 図工 家庭 体育 生活	教育課程 授業づくり(2回) 授業実践研究1 授業公開と研究協議 安全管理(理科・体育)	授業実践研究2	授業実践研究3																								
	教科別研修 I 【研究所】【嶺南事】 国語 算数 理科 社会	教科別研修 II (実技教科) 【研究所】 書写(25名) 音楽(25名) 図工(25名) 家庭(25名)			教科別研修 III (主要教科) 【研究所】【嶺南事】 国語(各15名) 算数(各15名) 理科(各15名) 社会(各15名) 各課研修(6時間)	(選必) 授業づくり																						
	総合的な学習 特活	【義務課】学力向上マネジメント研修会(全小学校 校長他)・ブロック別研修会(全小学校 各2名 国語・算数)・国語授業力向上研修会(全県小中60名×2回)・小学校教員指導力向上事業(理科担当・苦手教員210名)・弦楽指導者講習会 I～III(小中県立10名～30名)・地域と進める体験推進事業研修会(全小中学校 各1名) 【生涯課】書写書道教員実技指導者研修(国語科書写担当30名)・子ども読書取組事例研修会(図書主任150名)・子ども読書指導者研修会(司書教諭・学校司書60名)・白川文字学ゼミ(小中高 60名×4回)・白川文字学漢字教育賞授賞式(小中高100名) 【スポ課】体育主任研修会(全県小中270名)・学校体育実技講習会(小中高70名)・学校体育実技指導者伝達講習会(小中高80名)・武道指導者養成講習会(未経験者20名)・学校体育実技認定講習会(小中高20名)・武道の授業を楽しくする研修講座(小中高20名) 【研究所】複式教育																										
	外国語活動(英語)	外国語活動の基礎		小学校英語の授業づくり		(選) 小学校学級担任 英語研修				(選) 小学校学級担任 英語研修					(選) 小学校学級担任 英語研修													
道徳	授業公開と研究協議																											
ICT	情報セキュリティの基礎	タブレット活用(小中高200名)			タブレット活用(小中高200名)																							
主体的・対話的で深い学び		深い学びの視点を取り入れた授業づくり	深い学びの視点を取り入れた授業実践		深い学びの視点からの授業改善			深い学びに関する校内OJTの進め方																				
社会教育	人権教育	人権教育の基礎																										
	NIE	【高校課】嶺南地区県立学校人権教育担当者および小中学校福祉教員等連絡協議会(嶺南地区20名) 【生涯課】人権教育指導者研修会(人権教育の指導的立場 嶺北400名、嶺南500名)																	【義務課】【高校課】人権教育研究協議会									
教育課題	学級経営	学級経営(小中150名)				(必) 子どもの変化と発達				(必) 子どもの変化と発達				(必) 子どもの変化と発達														
	教育相談	ソーシャルスキルメンタルケア 教育相談とカウンセリング				(選) 教育相談担当 教員養成研修				(選) 気がかなりな子どもの支援				(選) 教育相談担当 教員養成研修														
	生徒指導	生徒指導の基礎 健康安全教育(防災・食育)																										
	いじめ・不登校	ネットいじめ対応																	【義務課】いじめ不登校対策研修会									
	教育相談担当																											
	その他	【義務課】教育相談担当教員養成研修(全県小中高30～40歳代教員150名)・(選)免許状更新講習に読替え可 【義務課】教育相談担当者連絡協議会(全県小中高150名) 【スポ課】健康教育指導者研修会(幼小中県立国立私立教職員各校1名)・薬物乱用防止教室講習会(小中高特各1名)・防災・防犯教室講習会(全県小中高教委300名)・交通安全教室・防災教室講習会(安全担当教諭、市町教委各1名) 【各地域開催】生徒指導主事研修会(小中生徒指導主事)																										
インクルーシブ教育	特別支援教育の基礎																											
	マネジメント	保護者対応と人間関係づくり			ファシリテーションの意義と方法							学校組織 マネジメント カリキュラム マネジメント		(選必) チーム学校を学ぶ					目標管理 人事評価 管理職マネジメント ファシリテーション・傾聴 学校経営 ビジョン カリキュラム・マネジメント 危機管理									
保幼小連携																												
その他	教職員の服務 教員のメンタルヘルス	ボランティア活動			服務規律 社会体験研修	(必) 国の教育政策 (選) 教育実践研究		校内OJT		(必) 国の教育政策 (選) 教育実践研究				(必) 国の教育政策 (選) 教育実践研究														
		【義務課】外国人児童・生徒等教育連絡協議会(全県小中学校教員 25名) 【スポ課】保健主事研修会(全県小中高教委 270名)・給食主任研修会(全県小中 270名)・スポーツ施設安全管理講習会(全県小中高教委 200名)																										

年齢	23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60																																	職務研修			
	採用年数																																				
研 修	初任者研修	2年目研修	3年目研修		中資質 教諭等 向上研 修	免更 新状 講習 ①		ミ ド ル リ ー ダ ー 養 成 研 修		免更 新状 講習 ②		マ ネ ジ メ ン ト		免更 新状 講習 ③		新 任 教 頭 研 修	経 年 教 頭 対 象 研 修	新 任 校 長 研 修	経 年 校 長 対 象 研 修																		
日 数	14	5	3		5	3		2		3		2		3	5			3																			
高 等 学 校	教育課程 授業づくり(2回) 授業実践研究1 授業公開と研究協議	授業実践研究2	授業実践研究3																																		
	教科別研修 I 【研究所】 国語 地歴・公民 数学 理科 音楽 美術 書道 家庭 英語 保健体育 農・工・商				教科別研修 III (主要教科) 【研究所】 国語 地歴・公民 数学 理科 音楽 美術 書道 家庭 英語 産業 各課研修(6時間)	(選必) 授業づくり																															
教 科 等	【義務課】弦楽指導者講習会 I～III 小中県立 10名～30名 ・吹奏楽指導者研修会(全県中高吹奏楽指導者60名・教員の外部検定受検) 【高校課】主権者教育指導者研修(全県160名) ・中学・高校家庭科教員研修(全県中高160名) ・観光に関する教員研修会(全県商業科教員10名) 【生涯課】書写書道教員実技指導者研修(国語科書写担当30名) ・子ども読書取組事例研修会(図書主任150名) ・白川文字学ゼミ(小中高60名×4回) ・白川文字学漢字教育賞授賞式(小中高100名) 【スポ課】学校体育実技講習会(小中高70名) ・学校体育実技指導者伝達講習会(小中高80名) ・武道指導者養成講習会(未経験者20名) ・学校体育実技認定講習会(小中高20名) ・武道の授業を楽しくする研修講座(小中高20名)																																				
	ICT	情報セキュリティの基礎	タブレット活用 (小中高200名)			タブレット活用 (小中高200名)																															
	【研究所】【嶺南事】タブレット活用(県立学校 各1名) 【高校課】特別支援教育ICT活用(特セ)																																				
主体的・対話的で 深い学び	深い学びの視点を取り 入れた授業づくり 深い学びにおける評価 (中高80名)	深い学びの視点を取り 入れた授業実践			深い学びの視点からの 授業改善					深い学びに関する 校内OJTの進 め方																											
【各学校】ミドルリーダーを中心とした、主体的・対話的で深い学びに関する校内研修 【研究所】通信型研修講座「主体的・対話的で深い学び講座[入門編]・[授業づくり編]」																							【研究所】通信型研修講座「主体的・対話的で深い学びで学校改善を」														
社会 教育	人権教育の基礎																																				
【高校課】嶺南地区県立学校人権教育担当者および小中学校福祉教員等連絡協議会 嶺南地区 20名 【生涯課】人権教育指導者研修会(人権教育の指導的立場 嶺北400名、嶺南500名)																							【義務課】【高校課】人権教育研究協議会														
教 育 課 題	学級経営					(必) 子どもの変化と 発達				(必) 子どもの変化と 発達				(必) 子どもの変化と 発達																							
	教育相談	ソーシャルスキル メンタルケア 教育相談とカウンセリング				(選) 教育相談担当 教員養成研修				(選) 気がかなりな子 どもの支援				(選) 気がかなりな子 どもの支援																							
	生徒指導	生徒指導の基礎 健康安全教育(防災・食育)								(選) 教育相談担当 教員養成研修																											
	いじめ・不登校	ネットいじめ対応																																			
	教育相談担当																																				
【義務課】教育相談担当教員養成研修(全県小中高30～40歳代教員150名)・(選)免許状更新講習に読替え可																							【義務課】いじめ不登校対策研修会														
その他	【スポ課】健康教育指導者研修会(幼小中県立国立私立教職員各校1名) ・薬物乱用防止教室講習会(小中高特各1名) ・防災・防犯教室講習会(全県小中高教委300名) ・交通安全教室・防災教室講習会(安全担当教諭、市町教委各1名)																																				
インクルーシブ教育	特別支援教育の基礎																																				
【高校課】通級指導担当教員研修(全県30名) ・新任特別支援学級担任教員研修(全県 70名) ・特別支援教育関係研修講座(No.1～No.15・特セ)																																					
マネジメント	保護者対応と 人間関係づくり				ファシリテーションの 意義と方法							学校組織 マネジメント カリキュラム マネジメント		(選必) チーム学校を 学ぶ				目標管理 人事評価 管理職マネジメント ファシリテーション・ 傾聴	学校経営 ビジョン カリキュラム・マネジ メント 危機管理																		
その他	教職員の服務 教員のメンタルヘルス	ボランティア活動			服務規律 社会体験研修	(必) 国の教育政策 (選) 教育実践研究		校内OJT		(必) 国の教育政策 (選) 教育実践研究				(必) 国の教育政策 (選) 教育実践研究																							
【スポ課】保健主事研修会(全県小中高教委 270名) ・スポーツ施設安全管理講習会(全県小中高教委 200名)																																					

小中学校の訪問指導について

1 学校訪問（国語、算数・数学、理科、社会）

義務教育課、教育総合研究所、嶺南教育事務所が連携し、各学校へ訪問（1校当たり3人程度で概ね2日間訪問）

○スケジュール

5～6月 効果を上げている学校への訪問 25校(小学14校、中学11校)

・指導体制、教材・確認テスト等の事例収集

7～8月 学校訪問のまとめ・教材提供

・教材集を発行、全校に提供

6～11月 市町と連携した学校への継続的な訪問支援 25校(小学19校、中学6校)

・学力向上の対策議論、作成した教材集等をもとに支援

11月 学校マネジメント集を発行、全校に提供

成果検証（SASA）

2 学校訪問（英語）

義務教育課、教育総合研究所、嶺南教育事務所が連携し、各学校へ訪問（各小中学校 年間1回）

○スケジュール

4～5月 小学校を訪問

・授業参観と県作成教材の意見聴取、外国語活動の授業の指導・助言実施

中学校を訪問

・小中連携のあり方と授業改善の具体を指導

6～8月 指導案・教材案を作成（勝山市の取組み、学校訪問での意見を参考）

9～3月 全小学校で授業公開を実施

協力校における授業公開

・5、6年の全教員が授業を公開（2年間で3～6年の全教員が実施）

ブロック内の教員が参観

県立高校の学校訪問について

県立高校普通科10校を対象に、高校教育課、教育総合研究所が連携して学校訪問を実施

1 指導内容

- ・ 1週間連続で学校訪問実施。授業視察、各教員を指導
- ・ 到達度確認テストの学校の結果を示し、教科会で教科ごとの弱点補強ポイントを指摘、授業改善を指導
- ・ 高校生学習状況調査の結果をもとに、授業改善が必要な教員に対し、各校の教頭とともに指導
- ・ 校長・教頭に対し、指導・評価の結果を示し改善を指示
後日、授業改善レポートを作成し学校に徹底

2 スケジュール

4～6月 学校訪問（1回目）

- ・ 前年1月の到達度確認テスト結果に基づく指導
- ・ 上位校におけるスキルの高い教員の授業分析
→模範授業を他の学校へ公開（遠隔活用）

7月 高校生学習状況調査

8月 到達度確認テスト（3年生）

9月 " （2年生）

9～11月 学校訪問（2回目）

- ・ 学習状況調査、到達度確認テスト結果に基づく指導
- ・ 6月の学校訪問のスキルの高い教員の教え方を普及

1月 到達度確認テスト（1、2年生）

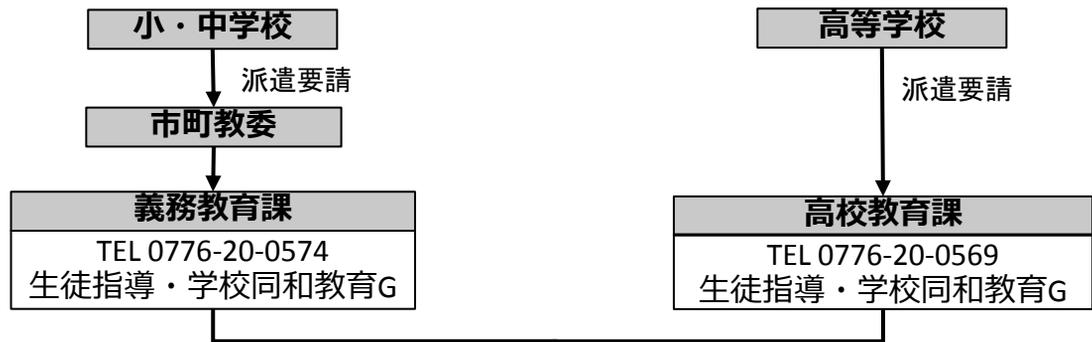
緊急・困難事案への対応（学校サポートチーム派遣）

- ・不登校等の事案への対応は、校長、教頭、担当教員が行うことを基本とする。
- ・学校における対応が困難な次に掲げる事案に対し、学校サポートチームを派遣する。
- ・法律相談が必要となる場合は、教育委員会の顧問弁護士を活用する。

＜チーム派遣の対象となる事案＞ 年間30件程度（10回派遣/件）を想定

- ① 生命、心身に危険がおよぶおそれがある場合（自殺企図、犯罪被害 等）
- ② マスコミ報道により子どもに影響がおよぶ可能性がある場合
- ③ 深刻化、長期化して解決の糸口が見いだせない場合（重篤な不登校、いじめ）
- ④ その他、教育相談センター長が必要と判断した場合

＜チーム派遣の流れ＞



教育相談センター
TEL 0776-58-2180 学校サポートチーム担当
TEL 0776-51-0511 24時間電話相談

センター長

教育相談課長

学校サポートチーム派遣

来所相談対応

リーダー

リーダー

【小中学校】

【高等学校】

教員

教員

教員

スクール
カウンセラー

スクール
カウンセラー

心理職

スクール
ソーシャルワーカー

スクール
ソーシャルワーカー

関係機関への連絡

警察、児童相談所、健康福祉C、特別支援教育C、医療機関など